

立川市の将来像  
『にぎわいとやすらぎの交流都市 立川』

法令・学習指導要領  
立川市教育委員会 教育目標

立川市の目指す子どもの姿  
○「知」「徳」「体」の調和のとれた力を備えた子ども  
○生涯にわたって自己を高めようと努力する子ども  
○まちを知り、まちに愛着をもち、まちのよさを受け継ぐ子ども  
○まちや社会と主体的に関わり、貢献しようとする子ども

立川市の重点課題  
○学力・体力の向上 ○特別支援教育の充実 ○小中連携

重点取組事項  
○ネットワーク型の学校経営 ○カリキュラム・マネジメント

上砂川小学校 教育目標  
◎自ら考える子 ○心美しい子 ○たくましい子  
か 学習や生活において自分で考えることに喜びを見出し、他者の意見や考えを尊重し受容する中で、よりよい考えを創出することができるようにする  
み 仲間と一緒に取り組むことで、互いの良さを認め合うとともに集団の中で自己実現ができるようにする。  
す 主体的に考えさせるとともに、考えたことを表出できるようにする。  
な 意欲をもって取り組み最後まで粘り強く努力を続けることができるようにする。

立川第五中学校区 共通経営方針  
就学前教育と小中9年の12年間を通じた連携教育活動により、途切れ・隙間のない滑らかな指導を目指す。このことを通して、児童・生徒理解を基盤とした個に応じた働きかけを充実し、知徳体の調和のとれた人間の育成に努める。  
校区で目指す子ども像  
○豊かな人間性を身に付け、健やかでたくましく生きる児童・生徒  
○地域の方との活動を通して郷土を学び、郷土を愛し、環境を大切に守り続ける児童・生徒

経営理念 「さらなる高みを目指し、助け合い協働しながら共に学ぶ学校」  
上砂川小学校校歌「遥かなる多摩の丘陵 その上の富士のいただき あの高さ われらが理想」を体現する学校経営

目指す学校像  
「児童が期待に胸をふくらませて登校する学校」  
○子供たちが学んだことを誇りに思える学校  
○教職員が勤務したことを誇りに思える学校  
○保護者・地域が信頼を寄せてくれる、開かれた学校

目指す児童像  
「将来の社会を生き抜くために必要な、知恵と優しさと精神力の基礎を身に付けた子」  
か 考えをもって取り組む子  
み みんなで一緒に取り組む子  
す すすんで学んだことを活用する子  
な 何にでも粘り強くチャレンジする子

目指す教師像  
「仲間と協働し、努力し、行動する教師」  
・授業改善に努め、目指す児童像を実現できる指導力の高い教師  
・子供の今と未来に大切なことを考え、示し、行動する教師  
・仲間と協働し、主体的に課題を改善する教師  
・保護者、地域とともに学校を創りあげる教師

教育活動の目標と方策 (特に方策については、5W1Hを踏まえて具体的に記述する。箇条書きでもよい。)

<学校独自の取組>  
◇立川市教育力向上推進モデル校としての取組  
⇒「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、カリキュラム・マネジメントを意識した授業改善、教育活動の改善  
⇒高学年一部教科担任制の実施による児童の学力向上と教員の専門性向上  
⇒プログラミング教育推進校としての研究成果を生かした、プログラミング教育(情報科)の推進  
◇本物(人・自然・もの)との学びの充実  
⇒多様な考え、よりよい社会を創ろうとする人の姿との出会いによる学習の深化  
◇人権教育の推進「命を大切にできる児童の育成」  
⇒命を大切にする児童の育成に向けた教科横断的な指導の充実  
⇒自己肯定感醸成のための特別活動の充実  
⇒代表委員会児童によるいじめ防止月間等の取組の充実  
⇒各種調査等のきめ細かな分析による丁寧な実態把握と指導の充実  
⇒高齢者や障害のある方々との交流活動による、互いを認め合い高め合う共生意識の醸成  
◇立川市民科・ネットワーク型学校経営の推進  
⇒全学年による「玉川上水学」の実施  
⇒保護者・地域ボランティアと児童委員会活動の協働実施  
⇒本物から学ぶ学習の充実(地元うど農家見学等)  
⇒関係諸機関、PTA とのとの連携による、交通安全教室・自転車免許講習(3年)・立川シビックプライド(5年)救急救命講習(6年)の実施  
⇒地域団体による読み聞かせ、幼保交流活動の実施

<学力・体力の向上に関する事>  
◇「立川スタンダード20」「立川学級カスタンダード」を活用した、授業づくり・学級経営  
◇3学級5展開による算数習熟度別授業の実施(4年生以上)  
◇朝読書(火曜日)、朝学習(金曜日):算数東京ベーシックドリルによる基礎基本の徹底  
◇「地域未来塾事業」を活用した、放課後補習・学習教室等の実施  
◇東京都統一体力テストの活用  
⇒OJTによる授業改善、体育委員会を活用した日常的な体力向上運動  
◇オリンピック・パラリンピック教育の推進  
⇒各教科、総合的な学習の時間と関連付けたアスリートとの交流授業、日本の伝統文化体験等

<特別支援教育の充実に関する事>  
◇特別支援コーディネーターを軸とした、特別支援校内委員会による組織的対応  
⇒SC・巡回相談員・SSW、学校支援員、学習ボランティア等との連携  
◇特別支援教室上砂川小キラリとの連携  
⇒児童を多面的に見る工夫  
◇個別指導計画・学校生活支援シートの活用  
⇒保護者、児童のニーズを把握した指導計画の作成と実施  
◇市教育相談・就学相談、関係医療機関、子ども家庭支援センター、立川児童相談所等、外部機関との連携  
◇ユニバーサルデザインの視点を生かした、子供一人一人の教育的ニーズに合った支援の工夫(教室環境、学習指導法・教材の工夫)  
◇副籍交流活動の推進

<小中連携に関する事>  
◇小学校・中学校の公開授業及び課題別協議会の実施  
⇒9年間を見通した教科指導のための情報交換・共有  
◇各校の研究発表会への教員全員参加  
⇒互いの学び合い  
◇五中校区スタンダード(学習・生活)、共通SNSルールの活用と徹底  
⇒挨拶や言葉遣い等、学校と家庭がより連携していくための基準  
◇中学校英語科教員による外国語活動授業参加(高学年)・6年五中訪問による授業体験、部活動体験の実施  
⇒小学校から中学校へのスムーズな接続(中1プロブレム解消)  
◇中学生(第2学年)の小学校での職場体験の実施  
⇒キャリア教育のより広い機会の提供  
◇立川市民科における学習内容や取り組みについての共通理解の促進